

祝 詞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

皆さんが手にしている卒業証書は、皆さんの努力により、中学校の全教育課程を修了した証しであると共に、友達や家族など多くの人たちに支えられ、今日のこの日を迎えることができたという、忘れてはならないメッセージでもあります。特に今回は、令和の元号を刻んだ初めての卒業証書でもあり、その重みを十分心に留めて欲しいと思います。

皆さんは、この学校での3年間で知識、思考力、コミュニケーションや協調性など、確かな人間力を身につけられました。それらを糧に4月からは、高校などの新たなステージで、今まで以上に自分自身としっかり向き合い、将来、理想とする人生の実現のために、精一杯努力してください。

令和の時代を迎え、皆さんにはこれからの新たな時代に向けて、沢山の可能性に満ちた道が開かれています。自分の進むべき道を、自分で考え、自分で選び、自分の足で歩いてゆくのですね。時には壁にぶつかることもあるでしょう。その時には、この中学校で出会った、親しい仲間や信頼できる先生方、そしていつも寄り添い励ましてくれるご家族など、一緒に悩み相談できる心強い味方が沢山いることを忘れないでください。皆さん、どうか明るい未来に向かって力強く羽ばたいてください。

今年のNHK大河ドラマ『麒麟がくる』の主人公は、本能寺の変で主君の織田信長を倒した戦国武将、明智光秀であります。その光秀がまだ二十歳そこそこの頃、光秀が大黒天の像を拾ったのを見かけた家臣が「大黒天を拾うと千人の頭になれるそうです」と言った。それを聞くと光秀は、その像をあっさり捨ててしまったといいます。家臣がその理由を尋ねたところ、「私はその程度で終わるつもりはない」と、その大志を明かしたそうです。この逸話は時代を超えて、生きる上で大切な強い信念が込められていますので、皆さんに紹介させていただきます。

結びに、卒業生の皆さん、保護者の皆様方のご多幸とご健勝を祈念し、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年3月7日

さくら市議会議長 石岡 祐二